

福島第一原子力発電所 1号機 原子炉注水量低減の進捗状況について（ステップ1）

2016年12月27日



東京電力ホールディングス株式会社

- 汚染水処理設備の余剰分を確保する一つ的手段として、原子炉注水量を低減
 - **1号機について 12/14 (水) から注水量低減を開始**
 - ＜ステップ1＞ 4.5m³/h ⇒ 4.0m³/h (操作実績 11:35~11:57)
 - 2, 3号機は来年2月以降に順次実施予定

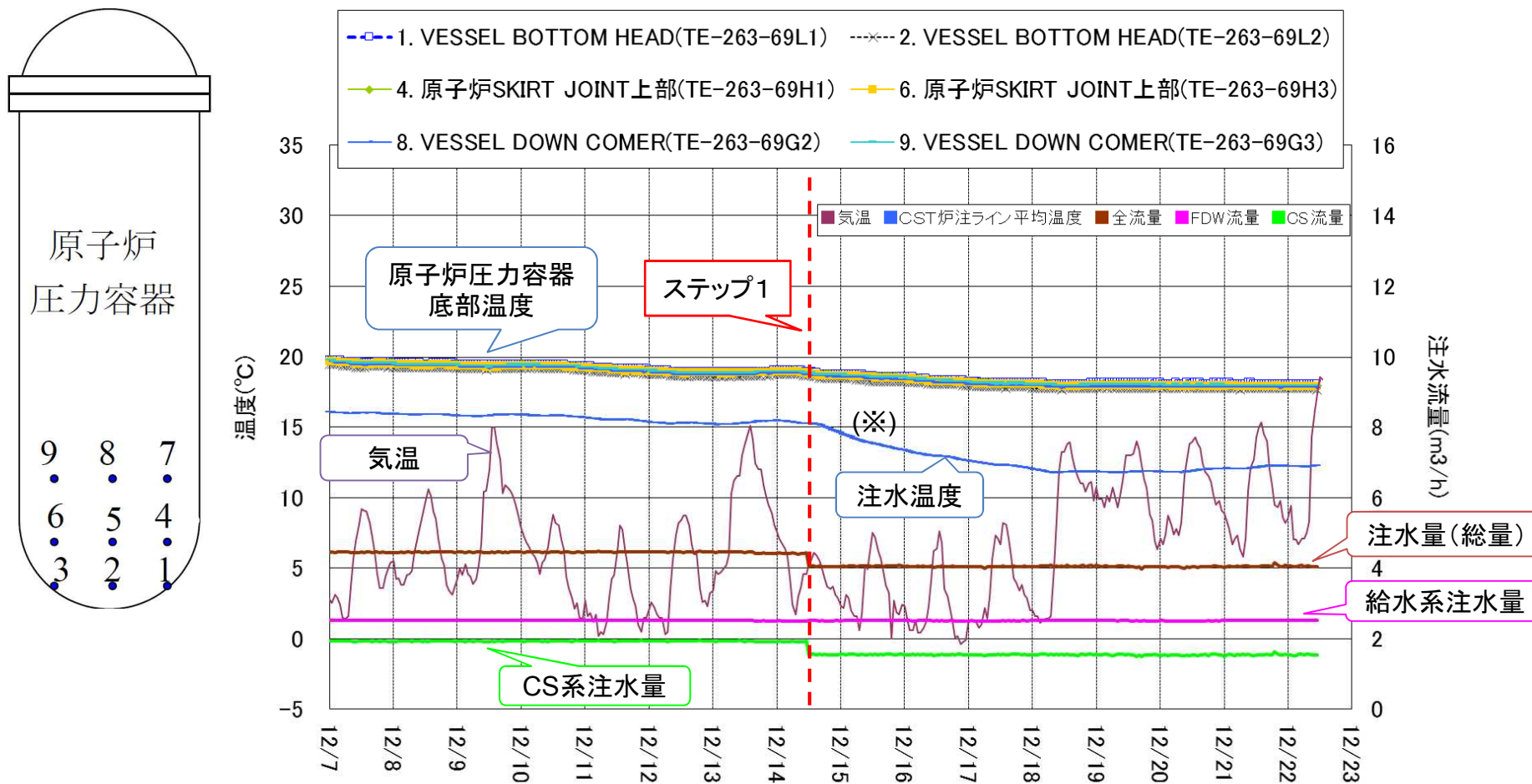
	1号[m ³ /h]	2号[m ³ /h]	3号[m ³ /h]	総量 [m ³ /day]
① 現在の注水量	4.5	4.5	4.5	324
② 注水量の目標 (低減量の目標)	3.0 (-1.5)	3.0 (-1.5)	3.0 (-1.5)	216 (-108)

- 原子炉注水量低減時には、原子炉圧力容器底部温度等のパラメータを監視し、冷却状態を確認

1号機 原子炉压力容器底部温度の推移

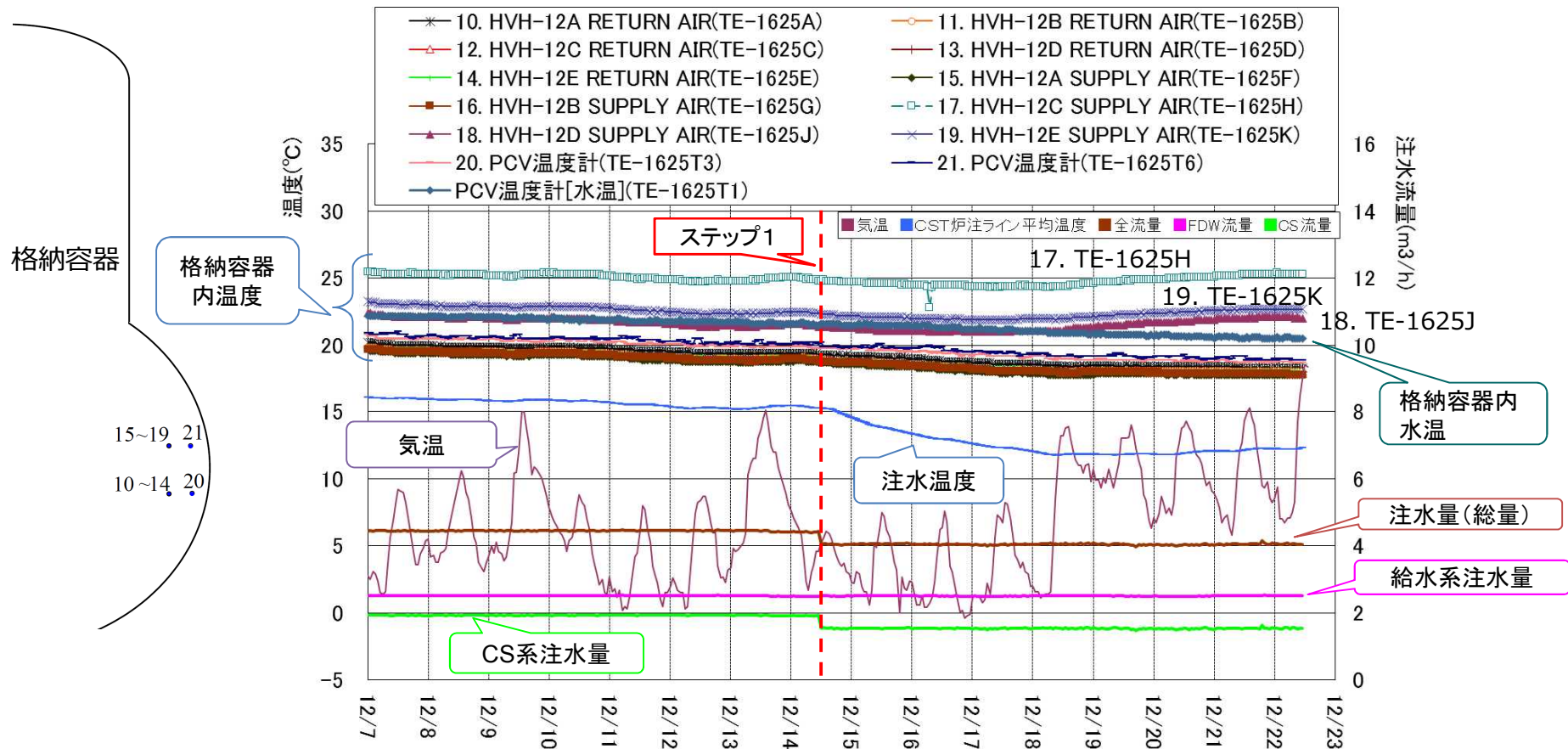
- 原子炉压力容器底部温度に温度上昇はなく、冷却状態に異常なし
 - 気温低下等に伴う注水温度の低下※が、注水量低減に伴う温度上昇よりも大きかったため、注水量低減後の原子炉压力容器底部温度は低下したものと評価

(※ 気温の変化に伴う注水温度の低下はこれまでも実績あり)



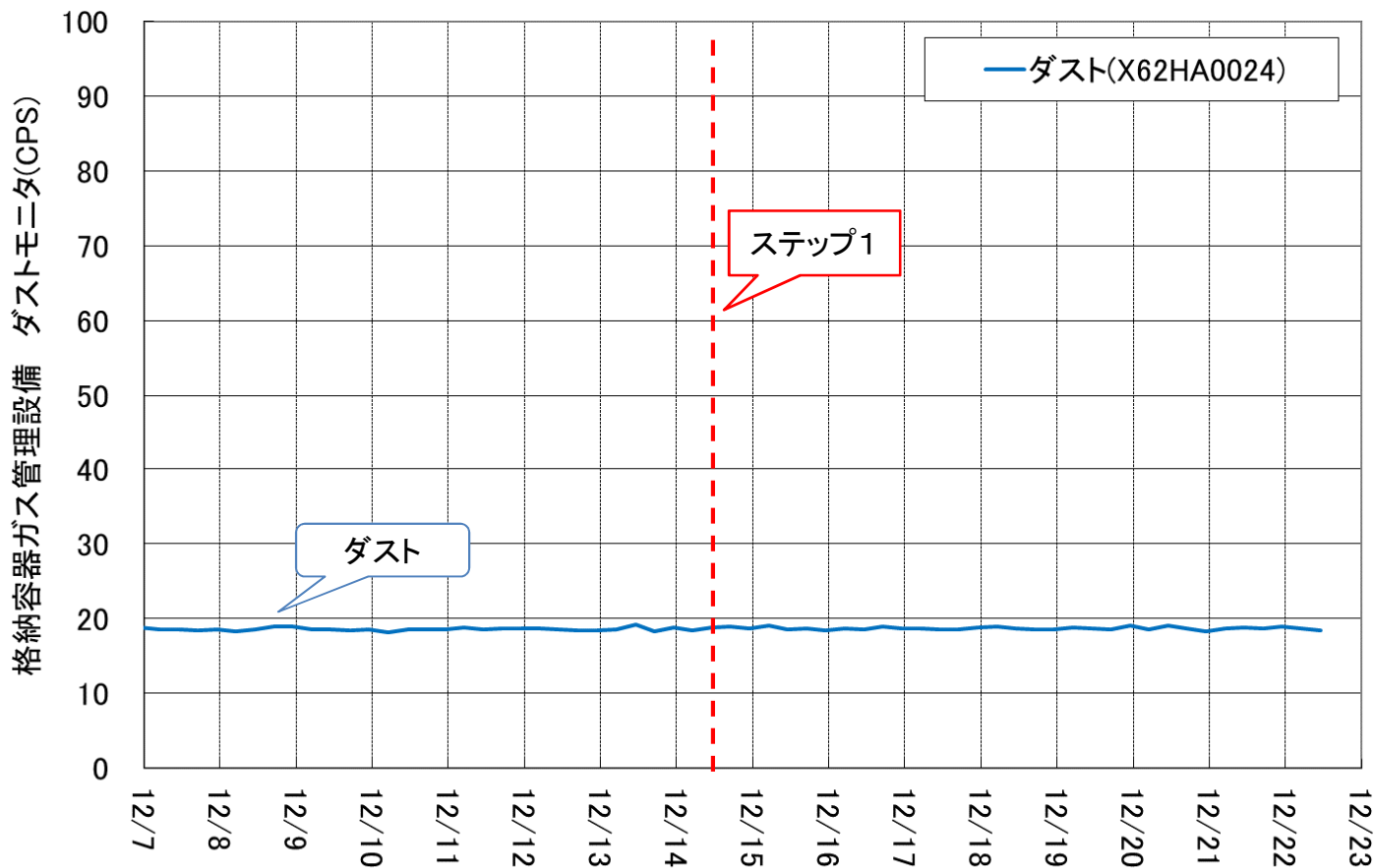
1号機 格納容器内温度の推移

- 格納容器内温度に大きな温度上昇はなく、冷却状態に異常なし
 - 大部分の格納容器内温度（TE-1625H, J, Kを除く）については、原子炉圧力容器底部温度と同様に、気温低下等に伴う注水温度の低下が、注水量低減に伴う温度上昇よりも大きかったため、注水量低減後の温度は低下したものと評価
 - 一部の格納容器内温度（TE-1625H, J, K）は、注水量低減直後は温度低下傾向であるが、注水温度の下げ止まりとともに上昇傾向に転じた後、許容範囲内の温度で安定



1号機 ダストモニタ指示値の推移

- 格納容器ガス管理設備のダストモニタ指示値に上昇はなく、冷却状態に異常なし



【参考】 1号機 格納容器圧力の状況

- 格納容器圧力は許容範囲内で大気圧に応じ変動しており、特に異常は見られなかった
 - なお、格納容器圧力に影響を与える窒素封入量やガス管理設備排気流量等にも特に変動はなかった

